

令和6年5月31日

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

No. 224

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立中小路小学校

今年度最初の「理科室のおじさんを訪ねて」は、中小路小学校（齋藤貴司校長）の千葉浩（ちば こう）さんです。

千葉さんは岩手県水沢市（現在の奥州市水沢）の出身です。ロサンゼルス・ドジャースで大活躍している大谷翔平選手は、水沢南中学校の後輩になるそうです。

千葉さんは、子どもの頃から植物が好きで、花やサボテンなどを育てていたそうです。今も植物が好きで、盆栽もやっています。結婚した頃に種から育てて盆栽にしている松が宝物であることを話してくれました。中小路小学校の玄関の前にある松の手入れもしてくれています。松は手入れが大変なので、学校は助かっていることと思います。

理科クラブに入る前は、日立製作所大みか工場で、インバータの設計を担当していました。根っからのモノづくり屋だそうです。

理科室のおじさんは、2校目で、中小路小学校は10年になります。学校では「千葉先生」と呼ばれています。児童が興味深そうに学習している姿を見るのが楽しみです。時々、児童から予想もしなかったような質問もあるそうです。よく調べてから回答するそうですが、これも楽しみなようです。

理科室では、実験の準備や環境整備等を行っています。学年ごとに、学習進度に合わせて実験器具を準備して、先生方が授業をしやすいようにまとめておきます。なかなか打ち合わせの時間は取れませんが、時期に合わせて準備をしておくことで、コミュニケーションも取れていると話してくれました。

この日は、5年生の発芽や成長の条件を調べる実験の準備をしていました。パーライトの水分なども気を遣っていて、植物が好きだという千葉さんらしい支援だと思いました。6年生のジャガイモの葉のデンプンを観察する実験の準備もしていました。5時間目、ジャガイモの葉を取りに行く6年生に会いましたが、目的意識を持って学習しているのを感じました。

子どもたちに伝えたいのは、「何でも興味を持ち、そのうち好きなことを続けるのが大事」ということです。続けられるものが見つければ「人生もうけもの」とも言っていました。

最後に、中小路小学校のよさを聞きました。どの児童も本当に素直なことと話してくれました。この日も、玄関から理科室まで多くの児童に会いましたが、皆、明るく挨拶してくれ、その素直さが伝わってきました。中小路小学校は海から近く、自記温度計などを見ると、夏でも涼しいそうです。よい環境の中で、学習しているのを感じました。



「理科室のおじさん」千葉浩さん



モビールを背景に



5年成長の条件



準備された教材



理科準備室も準備



千葉さんが手入れしている松